

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300089		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字山馬越196番地		
自己評価作成日	平成 22年 10月 3日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ひまわり」は平成8年に開所し15年目を迎えております。昨年スタッフが経験した看取りによって「今までの生活をあたりまえに送る」ということに気付くことの大切さを理解した。身体的に重りになったり、看取りの時期だからといって、それを特別視せず、長年生活を共にした馴染みの仲間やスタッフと共に、出来るだけ今までの生活スタイルを変えることなく、日常のざわめきや生活の匂いを大切にしたい関わりを目指さずことでスタッフの意識が統一された。これまでの理念「いつまでも健康と笑顔を願って……」から深化する理念を現在の入居者、スタッフ共同で構築段階にきています。今年度も引き続きドリームアゲインを行い、入居者、家族、スタッフの絆を深めるためにも入居者の夢の実現を目指します。地域との関わりも、地域の拠点となるように世代を超えた交流を考えています。いつもご協力いただいている家族、地域の皆様方にいつみられても恥ずかしくないグループホーム「ひまわり」でありたいと願っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370300089&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から15年目に入り、昨年には長く共に生活してきた利用者を看取る等豊かな経験と実績を有する事業所である。理念は生きものであるとして毎年検討しているが、それには職員全員で話し合うことを前提とし、その話しあう過程を大事にしている。また利用者の願いをかなえるための故郷訪問等のドリームアゲインは利用者、家族、スタッフの絆をより深める効果があり、法人の全面的な支援と相まって今後とも継続が望まれる事業である。さらに運営推進会議には、利用者が通うスーパーの店長や学童クラブの指導者等ユニークな方々が参加しており、この中で地域の話が提示されている事は、ホームと地域とが暮らしを一緒に考えて行くことにつながっている。長い年月のなかで管理者や職員も移り変わっているが、利用者への深い洞察と地域との積極的な関わりはしっかりと受け継がれている。そのような伝統と、「今」ある人たちが新しいものを創っていく姿勢が見事に調和している印象を受ける事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム「ひまわり」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「住み慣れた地域でその人らしく最後まで」のもと、事業所ではミーティングの際、理念とは、入居者やスタッフが変れば進化するものと捉え、独自の理念を構築し、共有することで、入居者の生活に寄り添った実践につなげている。	理念は生きものであるという信念のもと、誰かに決められた理念という事でなく日々のケアの目標という観点から職員間で話し合っ決めていく。現在のホームの理念は、「いつまでも元気で笑顔を願って」であるが、この理念からさらに進化したものにすべく検討することとしている。	理念を職員全員で検討していくプロセスには、職員一人ひとりの存在感と目標を共有していこうとする意欲が強く感じられる。利用者の参加も検討しながら、今後も事業所の「今」を創っていく姿勢は大事にしてもらいたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2カ月に1度、運営推進会議を通して、地域住民と意見交換を行っている。また、毎日の買い物やドライブ、行事に地域住民を招待するといったように交流する機会をもつよう取り組んでいる。	毎日の買い物やドライブ等、外に出て行った時のつながりに加えて流しソーメン、バーベキュー大会等の行事を通して地域住民を招待(来てくださいということのみならず学童クラブの子供達の場合は、迎えにも行っている。)したりして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人と一緒にバーベキュー大会や、近くの児童クラブの子供達と一緒に流しソーメン大会を開催し、入居者との関わりの中で認知症の理解を促している。法人が啓蒙活動として行っているボランティア劇団「気仙ボケー座」の活動にも積極的に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス利用状況、研修・行事など報告している。毎回、日々の生活の様子をスライドにしてより分かりやすく皆さん生活の様子を感じて頂いている。頂いたご意見は日々の生活に活かして、良い結果となって表れている。	運営推進会議にボーイスカウトの隊長や毎日通うスーパーの店長等ユニークなメンバーを加え、多方面からホームの理解が得られるよう報告している他、参加者の意見を重視する姿勢は地域状況語り合う場面にもつながっている。	直近では参加者から地域の防災体制について相談を受けており、地域協働の観点からその意義は大きい。短期的な解決は難しくても、常に話し合いながら地域と同じ方向を目指していく場としていってもらいたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して連携出来ていると思いません。スプリンクラー設置についても相談しながら設置する事に決まりました。日頃疑問に思う事も、こちらから担当者に出向いたり電話をかけたりにして、相談に乗って頂いております。	スプリンクラー設置の際の補助金対象が緩和されたことや夜間ケア加算の相談、情報提供等市保健センターとの協力関係は密接に築かれている。また、2カ月に一回の定期協議の場も設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会やスタッフミーティングでの勉強会を通して学び、身体的拘束の禁止は当たり前と全スタッフ共通認識しております。施錠に関しては、防犯という事から夜間のみ行なっているが、拘束の意味はまったくない。	身体拘束は法人としてしないことで全職員に徹底されている。また、身体拘束がやむを得ないと思われる場合においても、拘束しないように職員体制でカバーするというように徹底されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やスタッフミーティングでの勉強会を通して学び、虐待の防止は当たり前と全スタッフ共通認識しております。ただ、毎日の生活の中で親しくなりすぎて、くだけすぎた言葉使いやとっさに出る配慮の無い言葉使いが出ない様、スタッフ同士指摘するよう心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内・外部の研修を通し学ぶ機会はあるものの、現在、活用する機会がありません。ただ、管理者は以前、成年後見制度について関わった経験がありますので、必要となった時は参考になると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などを用い、十分説明し、その上で署名・捺印を頂いております。不安・不明なところがあれば、いつの時点でも相談に乗れる事を伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談及び苦情受付を設けている旨、契約書及び重要事項説明書に記載、玄関にも掲げております。また、家族アンケートの実施、家族が来所された際にも随時承り、要望を伺い運営に反映しています。	年1回は家族アンケートを実施して意見、要望を聞くようにしている。また、家族が来所された時にも随時聞くと共に家族が来られない場合は電話などで意見、要望を伺うようにしている。	家族からの率直な意見が出にくいということも見られるので敬老会等家族交流会の機会を利用するか他の事業所との合同家族会等を開催し意見、要望を引き出す等の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のみまわりミーティングや毎日の朝礼で意見、提案を聞く機会がある。それらが反映できるように話し合い、取り組んでいる。また、意見が出やすいスタッフ関係を築くためにもスタッフの交流会も随時開催している。	月2回のみまわりミーティングや日常的に職員間で雑談的に話し合っただけの意見や提案を全員で検討し運営に反映させている。管理者はフランクな場面作りを心がけており、忌憚ない意見や勤務外の交流にもつながっている。	何でも話し合えるという職員間の信頼は、事業所としての柔軟性を生み出すチームワークにつながっていく。今後も職員一人ひとりの意見を大事にしていてもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人とスタッフの絆が深まるように、金銭的な報酬以外にも非金銭的な「心の報酬」として、感謝・ワークライフバランス・文化・成長・環境に心掛けて頂いており、スタッフのやりがい、向上心の維持につながっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修機会は、月に1度の全体会をはじめ口腔勉強会、看護部会など様々な勉強会、研修会があり、積極的に参加しております。外部の研修も積極的に研修機会を頂いております。事例発表会に関しても今年度は2つ参加します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の定例会への参加を中心に、そこで得た多くの気づきを持ち帰り、日々のケアに活かしている。また、県グループホーム協会のブロック事務局及び、実行委員をさせて頂き、大変貴重な勉強をさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方が今何を望んでいるのか、何を必要としているのかを、本人、家族、スタッフが一緒になって話をし相談できる機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に何度か、家族と相談する機会を設けており、その際、傾聴し、家族の困っている事、不安な事を親身になって考え、一緒に解決していこうと思って頂ける事によって、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族、スタッフが一緒になり「その時、入居者が望んでいること、必要としていること」を検討して支援をしています。グループホームひまわりから他のサービスに移行されるときも十分協議をし入居者、家族に負担がかからないように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、スタッフは常に「家族」であるという事をお互い意識しあいながら、入居者が日々の生活において生きがいを感じて頂けるような生活の役割を発見し、それを実現できるような支援を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人個人の家族さん用の面会ノートを用意しており、面会時にはノートに記入して頂いております。また、面会時や電話でお話する際は、日々の入居者の様子を伝えたり、家族の最近の様子をお伺いしており、入居者、家族、スタッフの情報の共有に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの場所を訪問する「ふるさと訪問」を随時行っており、お盆など実家に帰れるよう支援しております。また、外泊、外出支援も積極的に行っております。	ドリームアゲイン(利用者の夢を実現しよう)ということで利用者の自宅、嫁ぎ先、生家、故郷訪問等入居者の馴染みの場所を訪問し、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	「利用者と生活を共にするということで夢をかなえましょう」というポリシーのもと積極的に利用者の馴染みの場所を訪問する活動を展開している。地域社会との関係性の継続という観点からも今後とも利用者に対する支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活していると入居者同士で絆が生まれます。優しい声掛けをしたり、手を貸してくれる時もあります。毎日同じテーブルでお茶を飲み、食事をし、一緒にうたも歌います。時には、口げんかもありますが、それも大切な関わり合いと考え、「家族」という雰囲気作り心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が引っ越しされましたが、馴染みの入居者とスタッフが寂しくないか心配で面会に行ったり、お亡くなりになりサービス利用が終了した場合においてもこれまでのように連絡を取り合っており、最近の様子を伺ったりしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の願いや希望、嗜好などを把握するように努めております。本人確認の出来ない場合には、家族に伺ったり、生活歴等によりアセスメントを重ねて入居者の意向把握に努めております。	利用者との日々の関わりや何気ない会話の中から願いや希望、嗜好などを把握するようにしている。本人から確認できない場合は、家族から聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族からお話を伺い、これまでの生活歴、地域性を考慮し、アセスメントを行っております。また、実際に「ふるさとに訪問」を行い、入居者と共にスタッフも生活環境を肌で感じるよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの把握、心身状態の把握など、スタッフみんなで連携し、たくさんの気づきを共有できるように、スタッフミーティングで話し合ったり、スタッフ連絡ノートの活用によって現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を有効活用するためにも、スタッフみんなで協議した内容を原案とし、入居者、家族に意見や希望を伺い、入居者が今何を望んでいるのか、何を必要としているのかを介護計画として作成している。	センター方式で家族の希望、本人の出来ること出来ないことを把握し、それを基本として介護計画に反映させている。また、職員の話し合いから家事などの暮らし方についても焦点を当て、共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的開催されるスタッフミーティングにおいて介護計画の見直しや課題の発見、ケアのあり方等話し合いの機会を設けております。日々入居者に関する気づきについてはスタッフ連絡ノートに記載したり、個別記録、日誌などに記録し、情報の共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用については、家族からニーズが多く、継続して実施しております。長く入居されてる方には、多機能支援として、外出、外泊の支援をはじめ「ふるさと訪問」として、馴染みの場所への訪問の支援に心掛けております。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーとして、地域の警察、消防、民生委員、地域公民館長、ボーイスカウト隊長等に協力して頂き、安全で豊かな暮らしを送れるように努めている。また、児童クラブの子供達との交流を定期的出来るように考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は一人ひとりかかりつけ医への適切な医療が受けれるよう支援できております。また、家族の力を借りながら受診の支援を行っております。入居者の様子がおかしい時は、かかりつけ医の先生に随時相談しております。	かかりつけ医は利用者一人ひとりで異なっている。受診は職員が付き添うこともあるが、極力家族に付き添って貰うようにしている。かかりつけ医とは、薬が合わないような時等連絡を取り合い対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職と職種は違っても日々の生活においては、報告・連絡・相談が常時出来ており、入居者に安心して生活をして頂いております。体調の変化や急変時にも24時間365日途切れることなく対応でき、スムーズな連携を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院の方がいなく、みなさんお元気に過ごしております。ただ、みなさんがお元気なのは通常の定期受診の際に、早期に体調の変化を相談したりなど、病院関係者との関係性が出来ているのも1つの要因であると考えられます。引き続き関係作り心掛けたいと思います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度は看取りを経験し、乗り越え、スタッフ一同大変勉強になりました。今年度スタッフ新体制になりましたので、再度、事業所内で勉強会を開催し終末期に対する考え方をスタッフで共有しております。また、今年度は、看取りに関する取り組みを事例発表として、2箇所報告します。	昨年度の看取りにおいては、本人、家族、かかりつけ医、ホームのスタッフとで終末期に向けての意向を確認し合い、最終的には自然に逆らわず今まで通りの生活を送ることが良いという方針のもと、14年共に暮らした利用者を看取っている。	延命も望む等の葛藤を経ながら「生活の延長線上に看取りがあるから自然のままにまかせよう」との方針に至り、関係者の綿密な連携のもと最後まで看取っている。今後とも、この体験で得られたノウハウと思いを活かして利用者が安心して納得した最後を迎えらる取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の医療等の連携や看護職員等との連絡方法のマニュアルも作成しており、実践も出来ております。応急手当や初期対応については経験不足のスタッフもいますので、定期的な訓練、勉強会が課題となっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の協力体制を話し合っております。場所、地域特性(少子高齢化が深刻)等から実現できていませんが、実現できるよう前向きに検討中です。避難訓練に関しては、昼夜問わず対応できるよう全スタッフ協力して行っています。	通報訓練や昼夜を問わず火災を想定した避難訓練などを実施している。災害時の地域との協力体制については、地域に若い人がいない等の理由により地域組織がない現状もあり実現されていないが、今後とも協力体制の構築に向けて努力したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人生の先輩としての敬意や誇りに配慮した言葉かけや対応をスタッフみんなで心掛けております。しかし馴染みの関係になればなるほど不適切な言葉使いや対応が出てくる場面がみられますので、スタッフみんなで声を掛け合って確認しながら直していく努力をしております。	利用者の誇りやプライバシーを損なわない言葉かけを基本とし、乱暴な言葉や親しくなつての家族的な言葉かけに注意しながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者の意向に沿った生活が継続できるように心掛けております。ただ、入居者が混乱しないように、入居者の意志を尊重しながらスタッフも必要最小限に支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを整えるという意味で、必要最小限に決まりを設けて、一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと生活支援を行なっています。職員都合が優先されることが少なくなるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で髪を整えることが出来る方には鏡を見て整えて頂き、馴染みのくしを使い髪を結ったり、男性の方は自分専用の電気かみそりで身だしなみを整えています。食事の際、洋服に汚れがついた時は着替えをするように心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の買い物と一緒に、食材を選ぶときから食事が楽しみになるよう心掛けてます。調理に関わって頂いたり、ごはんの盛り付け等にも関わって頂いています。食器の後片付けも入居者、スタッフ共同で行うよう心掛けています。	簡単な調理が可能な利用者には、人参の皮むき、もやしひげ取り等の手伝いをお願いしている。また、調理が難しい利用者には、調理の過程を見せたり、味見をして貰うなど調理の雰囲気だけでも味わってもらよう心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量の記録をとって把握し、「食が進まないときがあってもあたりまえ」の考えのもと、1日のトータルとして食事量を考えております。水分量に関しては、お茶の時間を設けてみんなで楽しく飲んでます。進まない時は、好きな物、イオンゼリーなどの工夫で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来ています。総入れ歯であっても、歯茎のブラッシング支援を心掛けています。また、自分で出来る方は、うがい、歯磨きを行って頂き、最後の仕上げの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はその人の様子や、間隔を見ながらトイレにお誘いし、トイレでの排泄を心掛けています。排泄記録によるパターンやサインの把握に努め、排泄姿勢の工夫も行うなど、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	トイレでの排泄を基本として、ぎりぎりまでオムツを使わないようにしている。オムツを使う場合は、ミーティングの場で職員間で検討するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表で、一人ひとりの便の出た日、量、状態をスタッフ全員共有しています。毎朝食事前にはヨーグルトを飲んで頂いたり、新鮮な野菜や、食物繊維やビタミンB5の積極的な摂取など食生活にも心掛けています。運動可能な方への働きかけ等も取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日の選択に関しては、スタッフの体制上厳しい現実があります。入浴を楽しむという点では、お風呂が嫌いな方への声かけの工夫や、入浴中は歌をうたったり、お話をしたり、1対1の時間を有効に活用できています。	利用者には、月曜日から土曜日にかけて週2回、午前中に入浴して貰っている。また利用者と職員が個別にコミュニケーションが図れる機会として、入浴時間帯を活用して一緒に歌を歌ったりして、利用者の気持ちよさに添うようにしている。	利用者の望みに沿った他の豊かな取り組みを行いながら、限られた体制の中では現状の入浴頻度となっている。今後「もっと入浴したい」という要望があるときは検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日々の生活に安らぎを持ってもらうため、日々の決まりきった予定表は無く、その方のその日に合わせて生活しています。夜間の安眠に関しては、一人ひとりに合わせたトイレ誘導、パット交換、体位交換をし安眠を妨げないように心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が入居者の薬に関わり、目的、用法、用量について把握する努力をしています。薬が変わったときなどは様子観察をし、変化があれば主治医に相談して、アドバイスを受けております。下剤に関してはその日の状況により、細かい取り決めをスタッフ全員で共通理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方への音楽療法への参加、昔より馴染みのあるコーヒータイム、生きがいったご詠歌の練習、ドライブで季節を肌で感じたり、季節に応じたならわし等を行っている。日常的には、家政としての役割で、掃除、洗濯たみ、茶碗拭き等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者からの外出の希望は少ないですが、週に1度のドライブの際は、行き先を入居者と一緒に考えてます。家族と連携して、積極的に「ふるさと訪問」や実家への外出の支援をしています。外出の際は積極的に写真を撮って、後日みんなで振り返っております。	買い物に行く利用者は限られているので、週に一度は、利用者と一緒に行き先を考えてドライブに出るようにしている。また、ドリームアゲインのもと家族の協力も得て、故郷訪問等の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入居者でお金を管理されている方が1名いますので、積極的に買い物に出かけ、自分で商品を選び、支払もして頂けるような支援を心がけています。しかし、多くの方は難しい状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を楽しみにしている入居者さんがいますので、出来るだけ家族とお話して頂いています。手紙に関しては、今年が入居者、スタッフ共同で、手作り年賀状を予定しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間など入居者と一緒に季節を感じられるような飾り付けをさりげなく工夫して取り入れています。七夕、お月見など季節を感じています。また、お花の好きな方に庭からお花を摘んでいただき素敵花瓶に入れてテーブルに飾って頂いています。	玄関、居間などには花や季節を感じ取れるような飾り付けがされて居心地の良い共用空間となっている。こうしたこともあり自分の居室で過ごす利用者は少なくほとんどがリビングで過ごしている。また、最近整備されたテラスで過ごす利用者も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれ居心地の良い場所があり、入居者同士穏やかに談話する関係が出来ております。時々、気が合わず大きな声を上げる方もいますが、お互い不快な思いをする前に職員が配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた布団や家具を用意して頂いており、それぞれの居室は特色あるものとなっております。短期利用のお部屋は、利用される方に配慮し、畳みを敷いたり、好みの枕にかえたり等、居心地良く過ごせるよう工夫しております。	居室には、筆筒、鏡台、テレビ、ソファ等利用者の使い慣れた家具や調度品が置かれ、居心地良く過ごせるような居室となっている。また、居室の前には、手作りの表札とともに若いころから現在までの写真も飾っており、どこことなく柔らかな雰囲気を出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には安全に歩行できるように障害となるものは置かず途中で休めるようにソファを数多く設置し、トイレにもわかり易いように大きく書かれたプレートを設置している。テラスを新築し、いつでも陽にあたれるようになっている。		